

一生に一度の出会い

富士見台中学校

後藤 和希

私は、今よりも視野を広げたいという思いからこのコロラド派遣事業に参加しました。日本では出来ない経験ができるという期待と、言語が違う外国に行くという少しの不安を抱いてアメリカに行きました。

最初の5日間は、ホストファミリーの方々と一緒に過ごしました。ホストファミリーは初めて会ったにもかかわらず、とても友好的に接してくださいました。3人のお子さんも初日から友好的でした。私は普段、初日からというのはできないのですごいと思いました。私自身、英語はあまり得意ではないのですが嫌な顔をしないで何回も繰り返し教えてくれました。そんなホストファミリーの方々と過ごしている内に少しの不安はいつの間にか消えてなくなっていました。また、そのことで心の広さを感じました。

このホームステイで私が一番印象に残っているのは、マレイアちゃんの誕生日会です。ホストファミリーのおじいちゃんとおばあちゃんの家で開かれたのですが、とても大きい家で、学校の三分の二くらいありました。家に入るとたくさんの方がいました。するとホストファミリーのお父さんが「ここにいる人はみんなマレイアの誕生日会のためにあつまりました」と教えてくださいました。日本では親戚の方全員でホームパーティーをすることはあまりないので驚きました。集まった方々はみんな優しくて親切で楽しい方々でした。夕食のとき、マレイアちゃんに誕生日プレゼントが渡されました。集まった方全員で誕生日の歌を歌いました。みなさん笑顔でとても楽しそうだったのを覚えています。

夕食の後に、ホストファミリーのお母さんやおじいちゃんに家を案内していただきました。家の中には、ホストファミリーの写真や親戚の方の写真がたくさん飾ってあり、庭にはトランポリンなどの子供たちが遊べる遊具が置いてありました。このことから家族、親戚の方々一人ひとりがとても大切な存在なんだということを改めて感じました。ほかに、昔のレコードとレコードプレーヤー、タイプライターなどが置いてありました。ホストファミリーのおじいちゃんがレコードを聞かせてくださって、「とても古いもので電気を使っていないんだ」と説明してくださいました。レコードはとてもきれいな音で、見たことも聞いたこともなかったのでとても感動しました。タイプライターも見せてくださって、こちらもかなり前に使われていたものだそうです。昔のものでも埃を被せずずっと大切にしているそうなので何かの思い出があるのだろうなと思います。その思い出はきっと何年経っても忘れないとてもいい思い出なのだろうなと考えました。

最初は迷惑をかけてしまうことばかり心配していましたが、そんな私にホストファミリーの方々が「本当の家族だと思っていいからね」と声をかけてくださってとても安心しました。私は初対面の人に、そのような声かけはできないのでアメリカの方は「一期一会」を大切にしているのだなと思いました。

ホームステイが終わると、ガーデン・オブ・ザ・ゴッズやロイヤル・ゴージ・ブリッジなどに行きました。特にガーデン・オブ・ザ・ゴッズには、研修で調べたことをきっかけに行ってみたいと思っていました。写真で見えていて自然の力はすごいと感じていたのですが、自分の目で見るとより壮大に自然の力を感じることができました。

この派遣事業で、アメリカの人々の心の広さを感じました。初めて会った方も前から知っていたように接して下さり、とても親しみを感じました。人や物のことも大切にするアメリカの方々の心は素敵だなと思いました。私も、アメリカの方々のように色々な人に対して積極的に“フレンドリー”に接して安心感を与えてあげられるような人になりたいと思いました。そして、人とのかかわることに対しての考え方も広げることもできました。この貴重な経験をさせてくださった家族、市役所の方、学校の先生方に感謝をして、この体験を通して日常の色々な場面に活かしていきたいと思います。